

令和6年11月27日

四條畷市議会議長 森本 勉 様

教育福祉常任委員会
委員長 吉田 裕彦

教育福祉常任委員会行政視察報告書

教育福祉常任委員会行政視察について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 日 程 : 令和6年10月30日(水)～31日(木)
- 2 視察先及び : 1日目 10月30日(水) 午後1時から午後3時まで
視察項目 愛知県高浜市「子どもに対する学習支援と貧困対策について」

2日目 10月31日(木) 午前10時から正午まで
岐阜県可児市「文化創造センターの運用状況について」
- 3 視察委員 : 委員長 吉田 裕彦
副委員長 土井 一慶
委 員 長畑 浩則、島 弘一、
岸田 敦子、若松 正治、
随 行 者 議会事務局 中尾 恵子
- 4 行政視察報告書 別紙のとおり

令和6年度 教育福祉常任委員会 行政視察報告書（1日目）

視察日時	令和6年10月30日（水）13時00分～15時00分
視察先	愛知県高浜市
視察内容	子どもに対する学習支援と貧困対策について
視察目的	高浜市学習等支援事業について
調査概要	<p>子どもに対する学習支援と貧困対策について。地域福祉・共生推進グループグループリーダー 東條氏より説明を受ける。</p> <p>子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が親から子へ連鎖する「貧困の連鎖」を防止するため、支援が必要な子ども達に対して、自ら将来を描くことが出来るような支援プログラムを実施。中学生を対象に、高浜市学習等支援事業「ステップ」を、平成27年7月25日開校。（NPO 法人アスクネット運営委託）</p> <p>「ステップ」対象者 平成27年度 中学1年生～3年生 平成28年度 中学1年生～高校3年生まで拡大 小学生学習支援事業「あすたか」開始 ※小学4年生～6年生のひとり親家庭対象 平成29年度 子ども食堂「すこやかサタディ」と連携 ※毎月第2・第4土曜日、16時～19時実施 平成30年度 「あすたか」を「ステップ」に事業統合 「ステップジュニア」小学4年生～6年生 「ステップ」 中学1年生～高校3年生</p> <p>支援内容は、①学習支援 と②関係性の創出 がある</p> <p>① は、生徒の習熟度や希望に合わせた学習支援を通じて、学習意欲の維持、希望する進路への支援等を行う、また、学習を通じた関わりの中で、高校進学後も自ら学ぶことができる姿勢の育成をめざす</p> <p>②体験活動や生徒自身のキャリアを考えるイベントを実施し、生徒の将来を描くことができるように支援すること、また、様々な大人や地域と関わるイベントを実施し、多様な価値観を持つ大人や地域との関係性を創出する</p> <p>「ステップ」の特徴は①連携体制 と②チャレンジサポーターの活動 である。</p> <p>①は、3つの連携をとっている。1、「教育と福祉」の連携では、福祉部と教育委員会とを、子ども健全育成支援員が橋渡しをしており、個別に相談に応じ支援の必要があれば利用を促す。2、「行政・学校」の連携では、月1回の定例ミーティ</p>

	<p>ングを実施し、児童生徒の出席状況と様子の報告を行い、通信の発行や、対象者への参加の促しを校長会で依頼し児童生徒の情報共有のやり取りを行う。3、「地域」との連携では、地域の人たちや多様な立場の大人たちと触れ合い、交流を深めるイベントを実施し、関係性の創出を図る。また、体験活動や生徒自身のキャリアを考えるイベントを実施し、生徒の将来を描くことができるように支援する。地域の協力による食事の提供として、地域の団体が協力し、お昼に1食100円で食事を提供、食事を通じて子ども達との交流の機会を確保する。</p> <p>※1食100円、食べ物には、お金が必要であると認識してもらうため協力団体は、特定の団体への委託ではなく、多様な15もの団体が代わる代わる支援を行い、お米や食材は地域の人たちからで、善意の寄付によるもの。地域の人たちは、『生活困窮家庭の子ども』への理解が深まり、子どもたちは、多くの人に支えられる安心感、地域への愛着が高まるとされている。</p> <p>②チャレンジサポーターの活動は、大学生のボランティアが、生徒の学習を支援するが、生徒を担当制にせず、多くの人と関わる様にする。関係性の創出として、話し合い活動でコミュニケーション能力をのばし、生徒向けのイベントを実施する。</p> <p>学習支援の役割としては、多様な課題解決のための『場』である ★「学習」は「きっかけ・手段」</p> <p>※説明終了後、質疑応答及び事前質問回答（抜粋） ○対象者の中でその他とは具体的にどのような人がいるのか？ ⇒その他としては、不登校や特別支援学級、自閉症等の疾患がある児童・生徒がいる。</p> <p>○学習支援事業業務委託料について ⇒令和6年度当初予算額：17,015千円</p> <p>●高浜市・いきいき広場・市役所（庁内・議場）視察見学 ・地域交流施設（たかぴあ）視察見学</p>
<p>所感（意見・感想・今後の課題等）</p>	<p>・「貧困の連鎖」を防止するための内容が、本市にも重要であることが理解できたが、成果を出すための手法を活かすためにも、行政と学校との連携強化が必要であると感じた。</p> <p>・「1人でがんばらなくてもいいんだよ、市や市民も一緒に支えるよ」というメッセージになる施策に大変感銘を受けた。</p> <p>「子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困の連鎖を防止するため、支援が必要な子ども達に対して、自ら将来を</p>

描くことが出来るような支援プログラムを実施」とある。

それをしっかりと実践していると思うが、対象を生活保護・ひとり親・就学支援・不登校の児童生徒・特別支援学級など困っているだろう家庭に絞っており、開催日時や場所は対象者にしか知らせていないこと。ホームページなどで公表せず、学習支援や食事提供のボランティアの人にも「街で子どもに会っても、自分から声をかけないでください」と徹底している。

本当に必要な家庭に、学習支援と食事の提供をし、支援が必要なこどもの居場所づくりを実施している素晴らしい取り組みである。

・この事業に参加している子ども達のプライバシーを守るために創意工夫されており、保護者は安心して任せられる制度である。受託事業者によって各学校まで対象となる子ども達を迎えに行き、事業を行っている「いきいき広場」で学習支援等を受けたのち、保護者は本会場へ迎えに来るというシステムを導入しているため、保護者としても安心できると感じた。

・「いきいき広場」では、教育福祉部門や社会福祉協議会も入る複合施設で、貧困対象者と悟られない施策をされていた優しさを感じる行政と感じた。

・「いきいき広場」は、名鉄・三河高浜駅に直結しており大変便利である。

施設内では、子どもに関する窓口が集約されており、教育委員会・社会福祉協議会・福祉部などが1フロアで回れる。施設職員が平面で居るので、何が起きても直ぐに対応でき安心感があると感じた。

令和6年度 教育福祉常任委員会 行政視察報告書（2日目）

視察日時	令和6年10月31日（木）10時00分～12時00分
視察先	岐阜県可児市
視察内容	文化創造センターの運用状況について
視察目的	文化創造センター ^{ア-ラ} の開館から現在までの取組みについて
調査概要	<p>文化創造センターの運用状況について、箆橋館長より説明を受ける。</p> <p>施設概要</p> <p>平成14年7月開館（令和6年度・22年） 敷地面積：35,344.54㎡ 建築面積：8,743.29㎡ 主劇場：3階1019席 小劇場：2階311席 総額：128億円（土地28億円 建物85億円 その他15億円） 年間ランニングコスト 約4億3千万円（内1億円・人件費）</p> <p>昭和57年に、可児町から可児市に、平成17年に兼山町と合併し、人口10万人超へのまちへ。</p> <p>文化センターは、市民の願いであり、昭和55年より建設に向けて基金の積み立てを開始、長年の議論を重ね、画期的なセンターが平成14年に完成</p> <p>可児市文化創造センターの基本理念として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.自然と調和した都市環境の中核となる施設 2.市民と共に歩む施設 3.市民の文化活動の中核となる施設 4.可児市の特色をアピールできる施設 5.鑑賞と創造を両立できる施設 6.人と自然に優しい施設 7.情報の交流拠点となる施設 8.文化活動を専門家が支援する施設 9.既存施設と連携した施設 <p style="text-align: right;">以上、9項目がある</p> <p>文化創造センター・ア-ラの事業は、社会包摂事業と鑑賞事業である。鑑賞事業においては、チケット収益の増加がほとんど見込めない社会包摂事業とは相反する組み立てのようだが、ア-ラの支持者、「岩盤」となるお客様を増加させ、基礎固めを着実にやっている。この「岩盤」の拡大が、文化芸術の盛んなまちであり「住みよく心豊かなまち」になり、その導きが「まち元気プロジェクト」である。</p> <p>※2008年から取り組んでいる「ア-ラまち元気プロジェクト」は、今年で16年経過</p>

地域と連携しながら、「生きる活力」と「コミュニティ」を創出し、“まち”を元気にすることを目的に活動を行い、社会の健全化を目指している。

こういった活動を通して、文化庁の外郭団体である独立行政法人日本芸術文化振興会の補助金の採択につながっている。

それは、まちづくりであったり子育てであったり多文化共生や観光に羽を拡げた国の文化芸術政策を体現しており、それが可児市であることの証左であると理解しているとのこと。

※公益財団法人 可児市文化芸術振興財団が管理運営

説明終了後、可児市文化創造センター筆橋館長より全館視察見学

※説明終了後、質疑応答及び事前質問回答（抜粋）

○収容人数の決め方について

⇒建設計画設立時から市民の参画を募り、利用の目的や方法について幅広く意見を聞いたうえで決定している。

○ホールそれぞれの使い方について

⇒主劇場・小劇場ともに多目的ホールとして作られていますので、利用者のニーズに合わせて利用して頂いている。

主劇場では、クラシックコンサートや吹奏楽などの音楽会、式典や公演会などに、小劇場では、演劇や音楽教室など発表会などに使われている。

所感（意見・感想・今後の課題等）

・文化創造センター^{ア-ラ}alalは、「まちづくりの核。市民の拠りどころ」と館長が説明。主劇場（1000人）の大ホール・小劇場（300人）の小ホールは、舞台人なら一度は立ちたいと夢見るようなホール。他に100人程度は入るロフトが、3つあり、音楽練習室が、3つあり、映画上映できるシアター、ワークショップルーム和室と洋室、等々があり、ロビーには座り心地の良い椅子や図書、グランドピアノも置いてある。外には水遊びが出来る芝生広場が広がり、ランチが出来るレストランも、さまざまな年代の人が時間を忘れ、ゆったりとした贅沢な時間、有意義な時間を過ごせる市民憩いの場となっている

「まち元気プロジェクト」と題した活動を実践。演劇や音楽などの一流の芸術はもちろん、市民が演劇、音楽、ダンス、歌舞伎等々、様々なアートに触れる機会を企画し、財団や行政だけでなく、地元企業・団体・個人の応援も受けて活動している。

市内の様々な人が関わって、文化を育て、発展して行く姿勢は学べきところがあり、今後の本市のまちづくりに生かすべきである。

・音楽ロフトという施設で概要の説明を受け、こちらの施設は本市でいう「展示ホール」位の大きさで、飲食も可能である。

館長からの説明では、公民館にしていけないことが重要で、公民館にしてしまうと利用用途が縛られて利用者も使いにくいと意見されていた。

私も同様のことを感じる。

これから、本市の市民総合センターについても、どの様に進んでいくのか、全ては市民のためにということを忘れず今後の公共施設の在り方について考えていきたい。

・市の財源を使わなければ維持できないレベルの施設であるために、市民と共に、また、情報の交流基点となる施設として役割と手法を学んだ。

・財団が管理することで、公民館と違い、使用する目的・団体に規制がかからず、あらゆる事に使用できる。館長から施設建設、施設への熱い思いを聞かせて頂いた。

文化事業の必要性、特に地域のコミュニティとしての重要性を話され、市民の皆さまの中心拠点となるようにしているとのことだった。

広い空間を活用しているだけあって、建設費や維持管理費がかかる。中に、芝生の広場、レストランなどがあり、市民の使用目的が広がる、この様なところは、本市にも取り入れていくべきと思われる。

視察の様子

1日目視察先

10月30日（水）
愛知県高浜市



「いきいき広場」
にて座学



高浜市役所を訪問

2日目視察先

10月31日（木）
岐阜県可児市



「可児市文化創造
センター」の
水と緑の広場前で



センター内見学
主劇場
「宇宙のホール」